

RUBeC 演習

田中 彬 智

Akitomo TANAKA

物質化学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私はアメリカ合衆国のカリフォルニア州パークレーにある浄土真宗センターで2016年8月13日から29日の間に行われたRUBeC演習に参加しました。この演習では、ネイティブの英語を話されるアメリカ人の先生に自身の研究の英語で書いた要旨の校正、パワーポイントを用いての英語による発表の上達するように指導していただきました。そして毎週水曜日に企業と大学へ見学に行き、アメリカでの仕事や勉強のスタイル、雰囲気などを実際に見ることで学ぶことができました。

2. 目的

私のRUBeC演習における目的は、英語で会話ができるようになり、読み書きもできるようになるための第一歩としての経験を積むことです。私は将来、このグローバルな時代で生きていくためには仕事においても私生活においても英語は欠かせないのではないかと考えています。そして英語を身に付ける為には一人での勉強よりも実際に英語を話す人と会話することの方がより効果的であると考えています。なので、積極的に外国の人と会話することで英語の習得のための第一歩を踏み出すことを目的としました。

3. 授業

3.1 テクニカルライティング

このテクニカルライティングの授業というのは、自身の研究の英語で書いた要旨を校正していく授業で、午前中に行われました。授業の進み方としては、いきなり研究の要旨の校正に取り組んでもどこが間違っているかやなぜ違うのか、どうした方が内

容が伝わりやすくわかりやすいのかといったことがしっかりと理解できなく、英語のライティング能力が身に付きにくいのでまずは基本的な文法の使い方を学びました。まずは冠詞について、どういった状況に冠詞をつける必要があるのか、またはつける必要がないのかということを確認しました。次に前置詞について、この状況ではどの前置詞をもちることが最適であるかといったことを確認しました。この冠詞や前置詞の使い方には細かい感覚や経験が必要であると感じました。なのでネイティブの先生から直接学べたことは非常に有益であり、また、わかりやすく感じました。次に文章において、わかりやすく印象に残る構成について確認しました。そしてこれらの学んだことを活かして要旨の校正を行いました。

3.2 英語プレゼンテーション

この英語プレゼンテーションの授業というのは、自身の研究の英語を使用したパワーポイントでの発表の改善をしていくという授業で、午後から行われました。こちらの授業も、いきなり自ら英語で作製した研究のパワーポイントで練習したり改善するのではなく、まずは発表において何が重要か、どういった言い回しが良く用いられ有効か、見やすくわかりやすいスライドとはどのようなものかという事を学びました。初めに2、3分の自己紹介をしました。ここではジェスチャーやアイコンタクト、声量、エネルギーが重要であると教わり、それらを意識して取り組みました。次に自分の1枚のスライドを選択しそれについて発表しました。ここでは自己紹介の際に指摘されたことを意識して改善するように取り組みました。そしてスライドをわかりやすいものにするために、アニメーションを用いたりよりシンプルにしたりすることで修正しました。最後にこれらの学んだことを活かして研究の発表を行いました。また、これらの授業の中で終始、英単語の発音やイントネーション、英文におけるストレスやチャンキングを細かく学びました。これらのことも細かい法

則の理解や感覚が必要であり、ネイティブの先生に教われたことで大きく改善されたのではないかと感じています。そして相手に英語を聞き取ってもらうためにはこれらが最も重要であると感じました。

4. 企業訪問

一週目の水曜日にカリフォルニア州サンタ・ローザにある Thermal Technology 社に見学に行きました。この企業はセラミックや金属の加工のため高温炉をの製造から設置までを一括して行っている企業です。アメリカでは唯一この企業が所持している放電プラズマ焼結 (SPS) を用いた高温炉の技術などを紹介していただきました。アメリカの企業を見学して感じたことは、かなり自由でリラックスして楽しく働いておられたが、自分の役割に誇りと責任を強く持って仕事に打ち込んでおられるなどということであった。こういった雰囲気も今後の日本に少しは必要であるかもしれないと考えました。

5. 大学訪問

二週目の水曜日にはカリフォルニア大学デービス校 (UC Davis) を訪問しました。この大学は龍谷大学の協定校であり、100年以上の古い歴史があります。UC Davis には学部生約 27000 人、大学院生約 7000 人が在籍するマンモス校であり、4つの学部と6つの大学院で構成され、102の学士課程と90の修士課程があります。また、教師陣は教授として名誉ある賞を所持している教授が17名、准教授として最も名誉ある賞を所持している准教授が55名と非常に優秀な教師がそろっているとのこと。次に工学部の Geotechnical Modeling Facility という学内の研究施設を見学させていただきました。ここでは全長18メートルの世界で最も大きい遠心機を

用いて地震のシミュレーションをすることで建築物がどうなるかという研究を行っていました。学校の雰囲気としてはここもまた自由ではあるが、勉学に取り組む学生の熱意や意欲が強く感じられました。

6. ホームステイ

RUBeC 演習の期間中は2週間のホームステイをしていました。私はこの RUBeC 演習において、ホームステイが楽しみであり、また、不安でもあること一つでした。それは今まで勉強では英語に触れてきましたが、日常や生活の会話における英語に触れることは初めてであったため、理解が及ばないのではないかと考えていたからです。しかしホストファミリーは、初め緊張していてあまり話せていなかった私たちに対し、終始笑顔で話しかけてくださいました。そのおかげでそこからはうまく伝わらなかったらどうしようという不安が消え、積極的に会話をする事が出来、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。このホームステイを通して感じたことは、自分から恐れずに積極的に会話をして、たくさん経験の積むことが語学の習得には欠かせないということでした。また、アメリカでは家族のつながりが強く、また、家族での決まり事を一人一人がしっかりと守ってこなしているなどということでした。もちろん私達も同じように過ごし、日本の家に帰ったら、家事の手伝いをしたり家族と過ごす時間を増やしてみようかなと考えました。

7. おわりに

研究の要旨やパワーポイントでの発表を含む、英語の上達を目標に参加した RUBeC 演習は、その上達には欠かせない第一歩としてのとても貴重で有意義な経験が出来ました。